

2 防災情報の収集・提供

2-1 国際会議の開催

2-1-1 アジア防災会議 2007

アジア防災センター (ADRC) は、カザフスタン共和国政府、日本国政府 (内閣府)、国連国際防災戦略事務局 (UN/ISDR)、国連開発計画 (UNDP)、世界気象機関 (WMO) と共に、2007年6月25日～27日、カザフスタン共和国の首都アスタナにおいて、『アジア防災会議 2007 (ACDR) ～より安全な世界に向けて～』を開催しました。会議の目的は、2005年1月の「国連防災世界会議」で採択された「兵庫行動枠組 2005-2015」(HFA) について、アジア地域の HFA 実施状況の検討、優良事例や成果の評価、実施における障害や課題の特定、今後の方向性の提言などを行うものです。また、ガバナンス、教育、科学知識の応用、官民連携、コミュニティー防災などの関連するトピックスの取り組みについても議論しました。

2-1-2 SAARC (南アジア地域協力連合) メンバー国とのワークショップ

アジア防災センターは、2007年11月6日にデリーにて SAARC メンバー国のハイレベル防災関係者を招集し、「日本・SAARC 地域防災協力推進ワークショップ」を開催しました。昨今、南アジアでは、洪水、サイクロン等による被害が頻発していることを踏まえ、地域横断的な防災活動の強化を目指して SAARC 内に防災センターを設立する等、地域内での防災活動の連携が始まりつつある中、外務省による日本・SAARC 基金を活用して日本の防災ノウハウを生かした支援活動が行われています。本ワークショップでは、今後、域内で必要になる防災活動として、衛星技術を活用したハザードスマップの開発 (当初は、フィージビリティ・スタディ) や各国の伝統的な防災ノウハウの収集に関する計画が紹介されました。

2-1-3 太平洋島嶼国に関する防災ワークショップ

アジア防災センターと外務省は独立行政法人国際協力機構 (JICA) の協力の下、2008年3月18日、神戸にて「太平洋島嶼国に関する防災ワークショップ」を開催しました。太平洋島嶼国は、その地理的状況から、地震、津波、火山噴火、洪水、台風といった様々な自然災害の脅威にさらされており、また、気候変動による海面上昇等の影響に対しても脆弱です。本ワークショップを通じて、各国の防災対策の実態、問題点や優良事例等を関係国間で共有すると共に、今後の大洋州地域での防災協力についても議論することができました。